

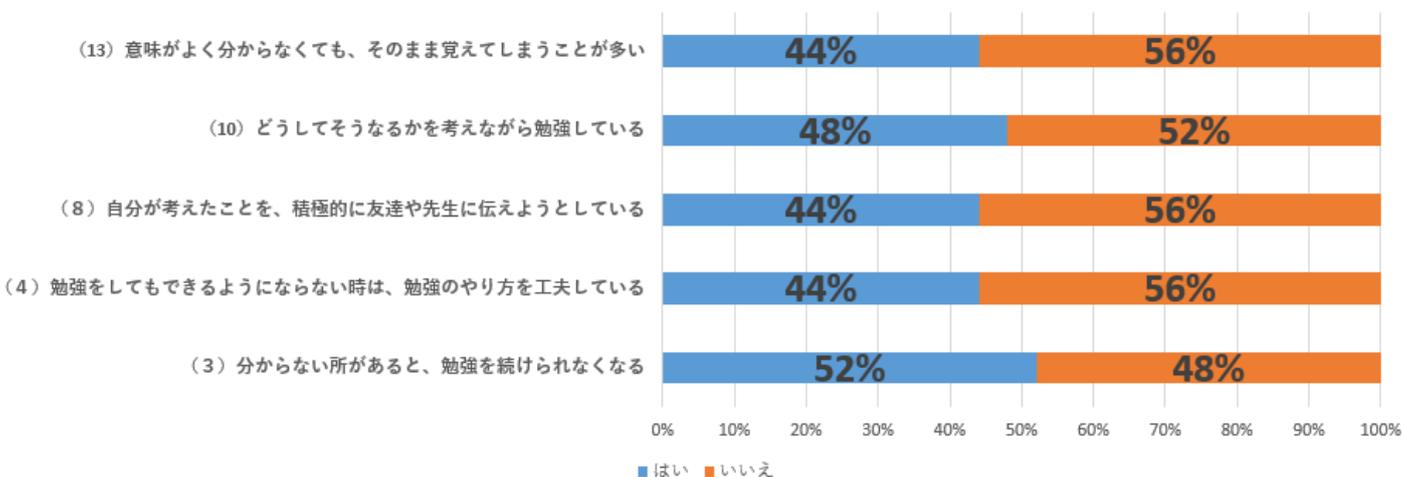
研究主題

学びに向かう力を育むための指導の在り方を考える
 ～「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の分析を通して～

分科会提案

現在の児童の姿 「児童・生徒の学力向上を図る調査」の分析より
 以下の点について、本単元で重点的に改善を行う。

4 学習の進め方について



学習方法が分からず、学習意欲が低下している。

学習の意味が理解できず、考える力が育っていない。

目的意識がなく、なんとなく学習を繰り返している。

情報カードを活用し、気付きの数が情報カードの枚数になることで、発見できた情報の量が可視化される。

4- (3) (4) の改善

情報の精選をする際に、情報カードを見返す活動を通して、必要な情報をより多く収集するための活動を行う。

4- (10) の改善

より分かりやすい発表をするための調べ学習をすることで、目的を意識した情報の収集活動となる。

4- (13) (8) の改善



目指す児童像

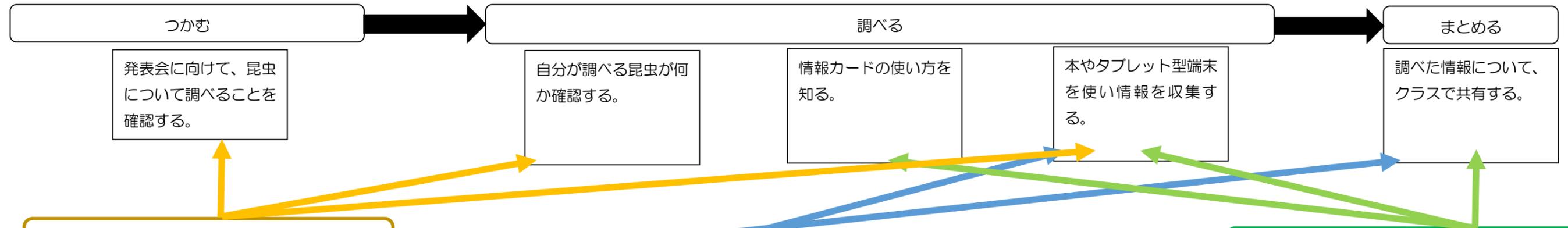
課題に対して、あきらめずに繰り返し取り組むことができる。

課題解決に失敗した際に、方法を変えて取り組むことができる。

課題に取り組む際に、自分で計画を立てて取り組むことができる。

単元の目標「昆虫を観察したり、飼育したりする活動を通して、昆虫の様子に関心と親しみを持ち、それらは生命をもっていることや、様々な変化や生態をしていることに気付き、自ら考えて生き物を大切にしようとする行動することができるようにする。」

本時の流れ



手だて1 「目的意識をもった調べ学習」

1年生への発表であることを常に意識することで、漠然とした調べ学習でなく、目的意識をもった調べ学習となり、児童一人一人が自分なりの計画性をもった活動ができるようにした。

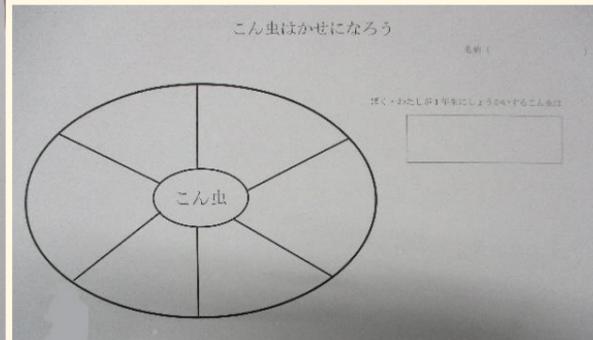
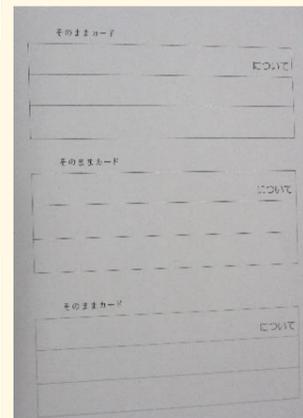


情報カードの枚数が増えていくことで、調べ学習に対する意欲が大きく向上し、書くことに対する苦手意識も軽減した。

手だて3 「タブレット端末の活用」



図鑑を写真で撮影し、teams上で共有した。これにより1人1人が手元にある情報を活用して、情報カードに書き込むことができた。



手だて2 「情報カードの活用」



1項目1枚でたくさんの情報カードを書いた。たくさん書けることで意欲につながった。

情報を収集する際に、情報カードを活用し、1つの発見に対して1つの情報を記入させる。気付きの数が情報カードの枚数になることで発見した情報の量が可視化される。さらに、情報を端的に記入できることで書きやすくなった。これらの手だてがたくさんの方々の情報を得ようとする意欲付けとなった。



電子黒板と teams を活用した授業を行った。

児童に見られた様子

手だて 1	手だて 2	手だて 3
「目的意識をもった調べ学習」	「情報カードの活用」	「タブレット端末の活用」
発表を意識したことにより、児童が自発的に1年生に分かりやすい内容を選ぼうとしていた。	1項目1枚で書き込むことで、情報カードの枚数が重なり、成果が可視化されることで、児童が意欲的に情報を収集していた。書くことが苦手な児童は、絵や図を使うなど情報の収集方法にも工夫が見られた。	紙媒体を活用した調べ学習に対して、多数の児童が同時に一つの情報源を見たり、文字を拡大して読み取りするなど、児童一人一人が工夫して情報を収集する姿が見られた。

成果

- 発表会という目的意識を明確にし、ゴールイメージをもったことで、児童の学習への意欲が高まった。
- 情報カードを活用することで、成果が可視化され、児童があきらめず、意欲的に情報を収集していた。情報のアウトプットを絵や図とすることで、書く作業が苦手な児童も取り組むことができた。
- タブレット型端末を活用したことで、情報源を共有することができた。拡大や明るさの調整でより情報を多角的に調べることができた。

課題

- 発表会の動画を活用するなど、ゴールのイメージを更に明確にする必要があった。
- 枚数が増えることで意欲が増したが、次時の情報の精選作業では、適切な選択ができない児童がいた。
- 情報源の精選が必要である。学齢に適した情報を用意し、数ではなく質で児童に与える必要があった。